

## 第1回和泉市学力向上検討懇話会 議事録<要旨>

開催日時	令和4年5月19日(木) 16時~17時40分	開催場所	和泉市役所 3階庁議室
出席者	<p>&lt;外部有識者&gt;  桶渡 啓祐 (前 佐賀県武雄市長)  小宮山 利恵子(東京学芸大大学院准教授)</p> <p>&lt;和泉市&gt;  小川 秀幸(教育長:座長)  藤原 安次(教育委員)  中西 正人(教育委員)  森吉 豊 (副市長)  吉田 康人(副市長:オブザーバー)</p> <p>&lt;事務局&gt;  並木 敏昭(教育次長)  上田 茂幸(教育指導監)  阪下 誠 (学校教育室長)  隅埜 哲弥(教育センター所長)  古川 ルミ(教育センター参事)</p>		
議事録 <要旨>	<p>1. 懇話会について  (1) 懇話会の位置づけ等について 【古川】</p> <p>懇話会の位置づけは、和泉市の小中学校の課題である学力向上に向けた新たな施策展開を図り、市長公約でも示された「令和6年度の全国学力・学習状況調査までに、児童生徒のテスト結果を府内市町村の平均以上に引き上げる」ため、有識者に参加いただき、助言を頂戴するものであり、諮問し答申を得る審議会等の位置づけとは異なり、自由闊達なご意見を頂戴するもの。</p> <p>そのため、本会議は非公開とし、議事録の要旨は各回終了後、出来る限り速やかに公開する予定。配布資料は、本日の会議のみで取り扱う資料とし、二次利用のないよう。実施日程は8月3日までの合計4回。</p> <p>(2) 懇話会の進め方について 【小川座長】</p> <p>学力を図るひとつのモノサシとして、「全国学力・学習状況調査」がある。新たな施策展開を図り、モノサシの目盛りをあげる。その結果、一つの目安として府内の市町村平均以上をめざす。</p> <p>(3) 懇話会の議論のテーマ等について 【小川座長】</p> <p>初回は、本市の現状と課題について事務局から概要を説明し、各委員から質問や意見を頂戴する。</p> <p>今後の各回における懇話会は、頂いた意見をもとに進めるため、(柔軟に)一例としてはICTや民間活力の導入についても議論をお願いします。</p>		

## 2. 和泉市の学力向上に関するこれまでの取組状況と課題、今後の更なる取組みについて

### (1)全国学力・学習状況調査の現状について【隅埜】

本市全体の全国学力・学習状況調査の現状として、折れ線グラフはそれぞれの教科の対府比を経年で表したものを。

小学校は令和元年度に対府比で国語算数ともに上回り、中学校は継続して下回る状況。

教育委員会では、小学校4年生から中学校3年生を対象に独自に児童生徒アンケートを行っており、その中の授業づくりに関わる5項目の平均の推移をグラフに表したものを。

小学校は平成28年度から85%前後を推移。中学校は令和3年度にようやく85%に到達。

令和元年度はアンケート項目を一部変更したため、小学校で数値が下がっている。

- ⇒課題
- ① 学校間・地域間格差が大きい
  - ② 市全体・小中学校共通して国語力(読解力)が弱い
  - ③ 中学校での授業改善の遅れ
  - ④ 家庭学習習慣の未定着

### (2)令和3年度までの取組みについて【隅埜】

- ① 教育課程内における主な取組み
  - STF 和泉の学びプロジェクト
  - GIGA スクール構想(1人1台学習用PC)
  - ALT 配置
  - 学校図書館司書配置
  - ICT 支援員配置
  - STF 和泉の学び研究推進事業
  - サン SUN ティーチャー派遣事業 等
- ② 教育課程外における現状の主な取組み
  - 学力向上サポーター派遣事業
  - いずみ寺子屋事業
  - いずみ希望塾

### (3)令和4年度の新規の主な取組み

GIGA スクール構想推進と授業改善の一体化

- ① 市 IDX チームの活動の継続
- ② リーディング・スキル・テストの活用
- ③ デジタル採点システムの導入
- ④ 英語 AI 教材研究協力

## 3. 質疑応答および意見交換

テーマ:「和泉市の学力向上に関するこれまでの取組み状況と課題について」

<樋渡氏>

【意見:樋渡】

- ・どうやって学力向上を図っていくか、PDCA サイクルを回すことが基本的な方針。
- ・議会、市長部局、教育委員会の関係について、ある意味で三権分立。

・佐賀では全国学力テスト・佐賀県内の学力テストを、議会・市長部局・教育委員会で共有。  
・学力の低いところは不登校の比率が高い。

**【質問:樋渡】**

和泉市としてどういうPDCAサイクルを回してきたのか、今後どのように回すのか。

**【答:並木】**

毎年、予算編成の前にこれまでの取組みの成果の確認を行い、その後に予算化をする。  
毎年度作成している「教育振興基本計画」を評価し、目的の達成度を図る。

**【質問:樋渡】**

議会、市長部局と教育委員会の関係は。

**【答:並木】**

教育委員会の権限は教育の内容について決めていくもの。現在は市長との総合教育会議を活用しながら、共通理解を図り予算の獲得のうえ、施策を進めている。

**【質問:樋渡】**

PDCAサイクルの中で何を重要視しているのか。PDCAサイクルで、和泉市において今まで、また今後、どういう指標を大切にされていたのか、また大切にしているのか。科目別なのか。全体なのか。中身なのか。特徴のある指標で大切にしているものは。

**【答:阪下】**

全国学力・学習状況調査を分析すると、読解力に課題があるということが判明。  
令和4年度はリーディング・スキル・テストを導入。

**【質問:樋渡】**

読解力を強くするために、どのようなことを実施してきたのか。

**【答:上田】**

例えば、140文字主張文で、自分の考えをアウトプットする取組みを実施。自らの考えをアウトプットするのに必要な読解力をつけるために、中学校区で取り組むところもある。

**<小宮山氏>**

**【意見:小宮山】**

取組みの説明から、非常に包括的な取組みであると感じる。

**【質問:小宮山】**

先生は、学力が点在することにより、どこの学力の基準をめざして授業をしているのか分からなくなっているのではないかと。

先生は、生徒がどこで躓いているのかを把握できているのか。ひとりひとりの生徒に必要な質問等の情報を提供できているのか。

IDXプロジェクトはデジタイゼーション(デジタル技術の活用)なのか。デジタルライゼーション(デジタル技術活用による構造的な改革)なのか。

テクノロジーを入れることにより、先生方の負担軽減をどこまでできているのか。PDCAで日々改善がなされているのか。

**【答:阪下】**

全国学力・学習調査が国のめざす「今後子どもたちにつけていきたい力」を表していると認識しており、それを自校採点することで躓きを把握している。今後、デジタル採点システムを導入し、定期テスト等で躓きを把握するとともに、授業改善へつなげていく。

**【質問:小宮山】**

躰きを把握するためのデータが出てきても、先生方が分析できないと、的確なフィードバックを生徒にできないと思うが、先生方向けの分析研修はあるのか。

**【答:隅埜】**

学力向上担当者等に対する分析研修を実施しているが、詳細まではできていない。

**【答:上田】**

育成プランを各校が作成し、学期ごとに進捗状況を見直し、(学校現場としてのPDCAを行い)、それを教育委員会と共有している。成績データ向上にどう結び付けるかの分析は非常に大事な視点。

例えば、デジタルを使用することにより、子どものやる気が出てワクワクする。子どもの意欲がわくのであれば、それらのツールは有用であると考ええる。

**【答:阪下】**

IDXについては、GIGAスクール構想において、その端末を有効活用しなければならないという発想のもとIDXを立ち上げた。カリキュラムの見直しや抜本的な構造改革までは考えていない。

**【意見:小宮山】**

いろいろな方面の施策をされているが、マトリクスで整理することも必要。成果の可視化が早くできるか、重要かどうか。

市としてどれを最優先で実践していくかを考えた方がいい。

**<藤原教育委員>**

**【意見:藤原】**

- ・理科等においては、記述していることが理解でき、頭の中で考えることができないと、学力向上までたどり着かない。
- ・AIにはできないが人間には出来る、例えば読み書きする能力や表現力の裏返しである読解力を、どのようにつけるかということが重要である。
- ・私学中学抜けという実態の理解から、どこの学校でも通用するきめ細かな対策が必要。

**<中西教育委員>**

**【意見:中西】**

- ・市の課題としてあげられている、学校間・地域間の差、読解力、中学校の授業改善、家庭学習時間等は、大阪府と同じ課題。
- ・お茶の水大学の耳塚先生が分析したが、学力には経済背景が影響している。大阪府においては、「北高南低」。和泉市の現状はそれを示している。
- ・包括的な取組みは出来ているが、厳しい地域等の学校の底上げに人的・財的支援がどれだけ効果的に働いていくか。

**【質問:中西】**

令和3年度に小学校が大幅に低下していることに対する分析は、早く重要なことから、という指摘の部分を今の施策の検証に活かすべき。

**【答:隅埜】**

- ・コロナ禍で学校、家庭での学習の状況が反映されていると考える。

**【意見:中西】**

令和2年、3年というのは、コロナ禍の影響は全体にあると思われる。その中で、特に和泉市の学力がこれだけ大きく低下したのは、かなりの分析が必要と考える。

**【意見:小川】**

経済状況が厳しい校区が令和元年は健闘していた。ところが、3か月もの臨時休校により、家庭に戻されるとしんどい地域がそのままテスト結果に反映されている。学校での学習状況がそのまま反映できていたものが、令和3年度には反映できなかったといえる。

**<森吉副市長>**

**【意見:森吉】**

- ・プロジェクトチームで学力向上に関する課題の抽出、課題改善の検討等はいいが、現場でどこまで浸透しているのか気になる。
- ・令和6年度の全国学力・学習状況調査で府内平均を全教科上回るという目標がある。それを踏まえて教育委員会に取り組んでいただきたい。
- ・GIGAで1人1台のパソコンを持っている。現在、ロイロ、タブレットドリル等の取組みを行っているが、これはおそらく、大阪府内どこでも実施されているのではないのか。同じことを実施して、府内平均以上をとれるのか。パソコンに頼らず、学力が上がることに取り組むのも一つ。
- ・リーディング・スキル・テストで課題が見つければ、分析し、即効性のある取組みに繋げてほしい。

**<小宮山氏>**

**【意見:小宮山】**

- ・家庭学習が難しかったところは学力の低下に直結していると思う。

**【質問:小宮山】**

家庭でのWi-FiやPC環境と、テクノロジーを使うことについての保護者のマインドセットがどれほど一致しているか。

**【答:阪下】**

- ・家庭のWi-Fi環境は、他市町村と比べて環境が整っていないことはない。しかし、環境が整っていない家庭もあり、モバイルルーターの貸し出しを行う等の支援をしているなか、通信費の負担が今後の検討課題。
- ・保護者への研修は、大きなものはできていないが、市から端末配備による授業実施を紹介するリーフレットを配布している。加えて、授業参観や懇談会等で担任が説明している。

**【答:上田】**

昨年度、子どもたちが新たに義務教育学校となる学校名を考えるにあたり、GIGA端末を利用することも実施した。

**【意見:小宮山】**

持ち帰りをさせていると、取得するデータ量が増えるので通信費の問題はあるが、可能な限り持ち帰り学習をさせた方が良い。

**【意見:上田】**

子どもは大人にない発想をする。文化祭の劇の道具作成におけるGIGA端末の使用など。子どもに教えてもらう立場で教育活動を展開する議論も必要。

**【意見:小宮山】**

- ・リバーズメンターシップの話。社会のスピードがどんどん速くなっている。子どもたちの価値観も違う。子どもたちから学ぶことはたくさんある。
- ・これからは、先生たちの役割は教えるが主ではないと、子どもたち一人ひとりの個性を伸ばして、モチベーションをあげる指導をすることにシフトしていくなど、先生の変化も必要である。

**<小川>**

今回のテーマは、ICTも出てきたので、授業の在り方も含めてテーマとする。

**4. 次回に向けて**

次回の懇話会は5月25日(水)16時30分から開催